

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 救急医療体制の充実	② 施策番号	4206
③ まちづくりの方向〔政策（章）〕	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち		
④ 基本施策〔施策大（節）〕	2 すべての市民が生涯にわたって健康な生活を送れるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 医療環境の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
健康福祉部	保健推進課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象（誰、何に対して施策を実施するのか）	市民（夜間帯の救急患者）
② 意図（対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか）	市民が急な病気になっても安心して救急医療を受けることができ、救命率の向上や予後の改善を図る。
③ 環境（この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか）	第7次大阪府医療計画（30～34年度）に基づき、泉州医療圏での急病者の入院医療を担当する二次救急体制を継続的・安定的に推進する。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標（成果指標）		単位	指標とした理由・考え方
①	病院群輪番制運営事業患者数	人	救急医療を利用した患者数を経年的に把握することにより、救急医療の概況等が把握できる。
	計算式		
②	病院群輪番制指定病院数	か所	医療機関数を確保することが、安定的な救急医療体制の確保につながる。
	計算式		
③			
	計算式		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
①	病院群輪番制運営事業患者数	人	目標値	85,156	85,317	90,884	—	—	
			実績値	85,156	85,317	90,884	—	—	
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
②	病院群輪番制指定病院数		目標値	20	20	20	—	—	
			実績値	20	20	20	—	—	
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費（千円）			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方針	
1	泉州医療圏二次救急医療対策事業	病院群輪番制運営事業患者数	人	85,317	90,884	90,884	2,897	2,671	3,010	A	ア	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						2,897	2,671	3,010			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	救急医療体制の充実を図ることは、救急患者に必要な診療を提供することであり、医療環境の充実につながる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	圏域で入院を必要とする救急患者数を把握することは、市が救急医療への需要を適切に認識でき、体制の確保・充実を図るための判断指標となる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	二次救急医療機関は、救急搬送患者の大部分を受け入れているため、医療機関の減少や疲弊など厳しい状況にある。そのような中、大阪府をはじめ関係機関等と調整を図り、救急医療体制の充実を図ることは、市の重要な責務である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	泉州二次医療圏で分担金を拠出し、救急医療体制の整備・運営を実施する泉州医療圏二次救急医療対策事業は、救急医療体制の充実を図る事業そのものである。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	大阪府医療計画においても、二次救急医療体制の確保・充実が、大阪府における救急医療体制上の課題の一つとされており、市民の命を守ることにつながり、それは泉州医療圏においても重要な課題である。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	今後も、広域(8市4町)での財政支援の確保に努め、救急医療への診療報酬上の加算を府・国へ要望する等、二次救急医療体制の確保を継続する。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	泉州医療圏の8市4町で、継続的に取り組んでいく必要がある。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	救急搬送人員は、今後高齢化の影響で増加するものと思われる。一部の医療機関に過度な負担が集中することのないよう、支援を図る。
中長期的対応 (3～5年をめどに取り組む改善案)	住民ニーズや期待の増大、医師の不足や疲弊、救急医療の不採算性等、救急医療を取り巻く現状は依然として厳しいが、それを受け入れる二次救急告示病院を確保できるよう調整する。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	広域連携による救急医療体制の確保に向けた取組が、適正に行われている。 今後も泉州医療圏の構成団体と連携し、救急医療体制の充実に向けた取組を継続されたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある